

令和6年度(2024年度)東海市健康づくり推進会議 第1回会議次第

日時：令和6年(2024年)7月25日(木)

午後2時から4時

場所：しあわせ村 多目的ホール

1 開会

2 市民憲章

3 委員自己紹介

4 事務局職員紹介

5 会長及び職務代理者の選出

6 議題

(1) 第2次東海市健康増進計画の評価について

ア 評価シート

A グループ：評価シート4-1 ①②③

B グループ：評価シート4-2 ①②③

C グループ：評価シート4-3、4-4、4-5

イ 意見共有

7 その他

(1) 第3次健康増進計画策定について

(2) トマト de 健康フェスティバル事業について 7月1日(月)～8月31日(土)

(3) 今後の会議予定 第2回：10月31日(木)、第3回：令和7年2月13日(木)

8 閉会

第2次

東海市健康増進計画
いきいき元気推進プラン

令和5年度(2023年度)
評価シート



令和6年(2024年)7月
東海市 健康推進課

令和5年度(2023年度)施策評価シート

1 評価シートの位置付け

第2次東海市健康増進計画(平成26年度～令和5年度)の施策に基づき実施した事業や次年度以降の方向性等について、東海市健康づくり推進会議において確認を行い、当該年度の施策を評価したもの。

2 健康増進計画の目指す将来像

テーマ 「めざせ 健康寿命日本一」

キャッチフレーズ ～いきいき元気なひと・つながり・まちづくり～

目指す将来像

①ひと：毎日を楽しめる心と身体

自分の身体の健康状態に関心があり、健康的な生活を過ごしながら、いつまでもいきいきとした人生を送っている。

②つながり：笑顔でつながるふれあい

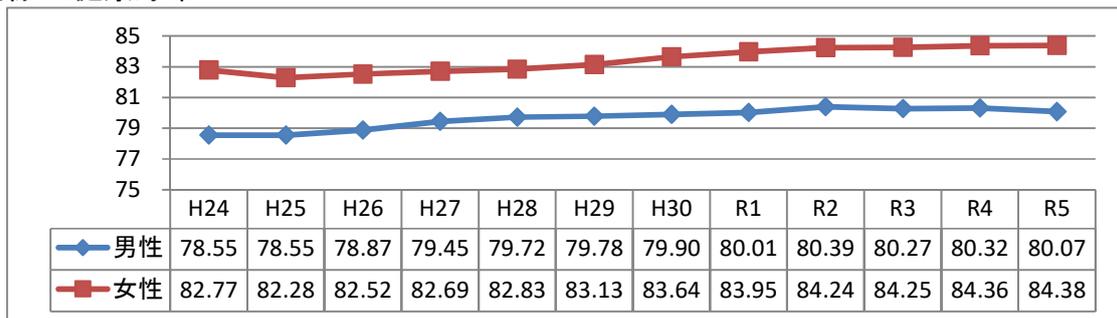
暮らしている地域でのつながりや、職場のつながりのなかで、楽しみながら健康づくりに取り組んでいる。

③まち：健康づくりに取り組みやすい社会環境

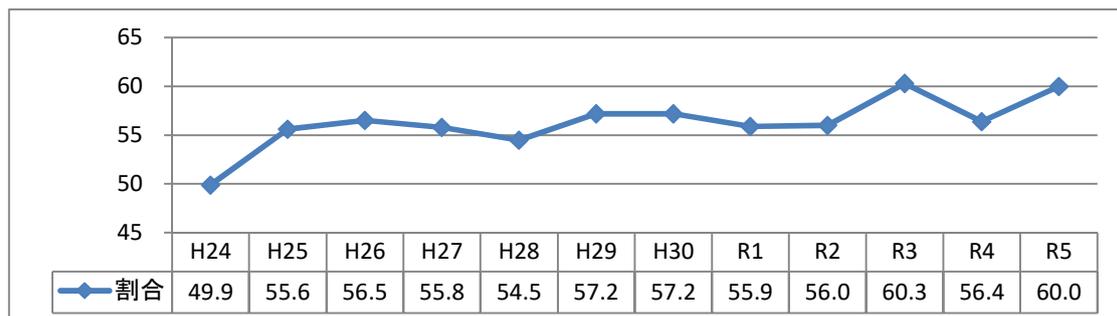
すべての市民が、自分に合った生活習慣のなかで、自然と健康づくりに取り組みやすい環境が整っている。

3 指標の推移

指標1:健康寿命



指標2:健康づくりの取り組みをしている人の割合



1 定義

国の健康日本21（第2次）の中では、「健康上の問題で日常生活が制限されることなく、生活できる期間」と定義されている。

2 算出方法

対象集団の人口、死亡数と不健康割合の基礎データを厚生労働省の示した「健康寿命の算定プログラム」にあてはめて計算する。

なお、不健康割合のデータは、①国民生活基礎調査の「日常生活に制限がある者の割合」、②同調査の「自分が健康であると自覚していないものの割合」、③介護保険の「要介護認定2～5の者の割合」のいずれかを使うことになっている。

国や都道府県は①のデータで健康寿命を算定しているが、本市では、①②は抽出調査であり算定が困難であるため、③のデータをもとに健康寿命を算定している。

③のデータを用いると①②と比較して「健康的な期間の平均」が長くなる傾向にあることから、国や都道府県と直接比較することはできない。

3 他自治体との比較

（単位：歳）

自治体名	男性	前回数値との差	女性	前回数値との差	備考
東海市	80.32 (78.55)	1.77	84.36 (82.77)	1.59	R4 現状値 (H24 現状値)
豊田市	80.50 (79.27)	1.23	84.00 (83.99)	0.01	H27 現状値 (H22 現状値)
岡崎市 (非公表データ)	81.11 (79.13)	1.98	84.93 (83.50)	1.43	H28 現状値 (H22 現状値)
大府市 健康づくり都市宣言	81.18 (78.87)	2.31	84.41 (83.03)	1.38	R2 現状値 (H22 現状値)
蒲郡市	79.53 (78.36)	1.17	84.33 (83.01)	1.32	H27 現状値 (H22 現状値)
松本市 健康寿命延伸都市宣言	80.27 (79.16)	1.11	84.11 (83.71)	0.4	H27 現状値 (H22 現状値)

※H27 現状値の自治体は平成27年国勢調査人口をもとに算出。

それ以外の自治体は住民基本台帳人口をもとに算出。

いきいき元気推進プラン 指標の現状値一覧

●総合計画指標

指 標		H24現状値	H25現状値	H26現状値	H27現状値	算出方法
1:健康寿命●	男性	78.55	78.55	78.89	79.45	厚生労働省研究班の指針に基づき、人口、死亡数、不健康割合の分母、不健康割合の分子を使用して算出。現状値は、人口(平成21年度から23年度までの合計)、死亡数(平成21年度から23年度までの合計)、不健康割合の分母(平成22年度の人口)、不健康割合の分子(平成22年度の要介護2～5の認定者数)を使用。
	女性	82.77	82.28	82.53	82.69	
2:健康づくりの取り組みをしている人の割合●		49.9	55.6	56.5	55.8	総合計画の市民アンケートで「はい」と回答した人の数/アンケート回答総数×100【】

項目	施策	指 標	H24現状値	H25現状値	H26現状値	H27現状値	算出方法	
4-1 健康の 大切	① 自分の体をメンテナンスできる人を増やす	3:年に1回は健康診断を受けている人の割合●	72.8	71.4	75.2	76.0	総合計画の市民アンケートで「はい」と回答した人の数/アンケート回答総数×100	
		4:生活習慣改善に取り組んでいる人の割合	胃がん	7.8	9.6	9.1	10.5	東海市の各種がん検診受診率
			乳がん	11.4	18.6	18.6	22.3	
			子宮頸がん	16.1	19.4	20.3	21.8	
	② 壮年期をがんから守る	5:がん検診受診率	胃がん	81.7	73.1	86.4	75.7	東海市のがん検診受診後の精密検査対象者のうち、各種精密検診受診者数/各種精密検診対象者数×100
			乳がん	90.3	89.5	88.0	85.4	
			子宮頸がん	67.9	43.8	60.7	57.4	
	③ おいしく食べ、おもいきり笑えるお口をつくる	7:中学生の歯肉炎の罹患率	6.1	4.0	5.2	4.3	学校保健統計(東海市学校保健部会発行)から「歯肉の状態」データ数	
		8:8020達成者割合	11.6	9.9	13.2	12.6	当該年度80歳到達者のうち、8020表彰の受賞者数/当該年度80歳到達者数×100。愛知県は「あいち新計画」より。	
	4-2 運動・ 身体活 動	① 体を動かすことの楽しさを知る機会を増やす	9:健康づくりでウォーキングなどの運動に取り組んでいる人の割合●	男性	37.2	35.3	37.9	37.0
女性				27.7	28.8	26.9	26.9	
10:1回30分以上の運動を週2回以上1年以上実施している人の割合			40～64歳	28.4	30.5	29.3	29.2	東海市特定健康診査の問診で、1回30分以上の運動を週2回以上1年以上実施していると回答した人の数/東海市特定健康診査受診者数
			65歳以上	49.3	51.4	50.3	48.5	
② 運動に取り組みやすい場を充実する		11:市内の施設や環境が健康づくりに取り組みやすいと感じている人の割合●	男性	56.1	59.9	62.2	59.1	総合計画の市民アンケートで「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人の数/アンケート回答総数×100
			女性	62.5	66.7	63.9	67.2	
③ グループ(企業・団体)活動を推進する		12:運動ステーションの数と利用者数●	箇所数	4	5	5	5	運動ステーションの設置数
			利用者数	-	108,822	130,689	146,091	運動ステーションの延利用者数
		13:市と連携して健康づくりに取り組む市民団体数・企業数	市民団体数	-	-	-	-	※健康づくり応援団制度をつくった後、健康づくりへの取り組みをしている登録市民団体数を把握するもの。
			企業数	-	-	-	-	※健康づくり応援団制度をつくった後、健康づくりへの取り組みをしている登録企業数を把握するもの。
14:1年間に地域や会社のウォーキングイベントや健康教室に参加したことのある人の割合●	12.4	12.7	14.5	14.1	総合計画の市民アンケートで「はい」と回答した人の数/アンケート回答総数×100			
4-3 食生活	① 適量やバランスを意識する機会を増やす	15:健康づくりで食事の量やバランスなど食生活の改善に取り組んでいる人の割合●	26.3	29.6	29.5	29.9	総合計画の市民アンケート「現在、健康づくりの取り組みをしている」で「はい」と回答した人のうち、取り組みとして「量やバランスを意識した食事」と回答した人の数/アンケート回答総数×100	
		16:食生活ステーションの数と提供メニュー数●	箇所数	23	31	35	36	食生活ステーションの設置数
			メニュー数	35	44	52	48	いきいき元気メニューとして認定し、市内の食生活ステーションで提供しているメニュー数
4-4 ふれあい	① 交流の場・活動の場を充実する	17:地域活動や市民活動を身近に感じている人の割合●	48.0	50.0	51.4	48.4	総合計画の市民アンケートで「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人の数/アンケート回答総数×100	
		18:困った時に悩みを相談できる人が身近にいる人の割合	男性	75.1	75.6	75.9	77.0	総合計画の市民アンケートで「はい」と回答した人の数/アンケート回答総数×100
			女性	90.7	88.5	87.9	90.1	
4-5 次世代の健康	① 規則正しい生活習慣を身につける	19:午後9時前に就寝する幼児の割合	1歳6か月	28.4	30.6	33.3	31.8	1歳6か月児健康診査、または3歳児健康診査の問診より、各健康診査での午後9時前に就寝する幼児の数/各健康診査受診者数×100
			3歳	25.9	23.2	26.6	28.1	
		20:朝食を食べている幼児の割合	1歳6か月	95.3	96.1	96.7	95.5	1歳6か月児健康診査、または3歳児健康診査の問診より、各健康診査での朝食を食べている幼児の数/各健康診査受診者数×100
			3歳	94.8	94.2	95.5	95.0	

いきいき元気推進プラン 指標の現状値一覧

●総合計画指標

指標	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	めざす方向	算出方法	
1:健康寿命●	男性	78.55	78.55	78.89	79.45	79.72	79.78	79.90	80.01	80.39	80.27	80.32	80.07	↑	厚生労働省研究班の指針に基づき、人口、死亡数、不健康割合の分母、不健康割合の分子を使用して算出。現状値は、人口(平成21年度から23年度までの合計)、死亡数(平成21年度から23年度までの合計)、不健康割合の分母(平成22年度の人口)、不健康割合の分子(平成22年度の要介護2～5の認定者数)を使用。
	女性	82.77	82.28	82.53	82.69	82.83	83.13	83.64	83.95	84.24	84.25	84.36	84.38		
2:健康づくりの取り組みをしている人の割合●	49.9	55.6	56.5	55.8	54.5	57.2	57.2	55.9	56.0	60.3	56.4	60.0	↑	総合計画の市民アンケートで「はい」と回答をした人の数/アンケート回答総数×100	

項目	施策	指標	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	めざす方向	算出方法	
4-1 健康の大切	① ② 自分の体をメンテナンスできる人を増やす 壮年期をがんから守る	3:年に1回は健康診断を受けている人の割合●	72.8	71.4	75.2	76.0	74.6	77.1	75.1	75.5	76.1	78.4	78.4	78.3	↑	総合計画の市民アンケートで「はい」と回答をした人の数/アンケート回答総数×100	
		4:生活習慣改善に取り組んでいる人の割合	30.0	26.2	25.7	25.9	26.5	26.8	29.8	29.7	28.1	30.0	29.5	29.6	↑	東海市特定健康診断問診で「生活習慣の改善取り組み済み」の人の数/特定健康診断受診者数×100	
	5:がん検診受診率	胃がん	7.8	9.6	9.1	10.5	10.2	10.2	8.4	7.4	6.1	6.5	7.2	6.4	↑	東海市の各種がん検診受診率	
		乳がん	11.4	18.6	18.6	22.3	24.4	24.9	21.9	22.4	17.3	20.9	22.1	21.8	↑		
		子宮頸がん	16.1	19.4	20.3	21.8	24.2	23.1	24.7	20.6	16.8	19.0	20.2	19.7	↑		
	6:がん精密検査受診率	胃がん	81.7	73.1	86.4	75.7	77.2	70.4	74.4	71.2	71.9	81.7	76.9	79.2	↑	東海市のがん検診受診後の精密検査対象者のうち、各種精密検査受診者数/各種精密検査対象者数×100	
		乳がん	90.3	89.5	88.0	85.4	86.6	78.9	84.3	87.1	81.2	79.6	88.4	82.7	↑		
		子宮頸がん	67.9	43.8	60.7	57.4	84.3	49.3	42.6	50.6	75.9	85.8	90.0	50.6	↑		
③ おいしく食べ、おもしろく笑えるお口をつくる	7:中学生の歯肉炎の罹患率	6.1	4.0	5.2	4.3	3.3	3.6	2.4	2.5	4.4	5.4	3.5	3.7	↓	学校保健統計(東海市学校保健部会発行)から「歯肉の状態」データ数		
	8:8020達成者割合	11.6	9.9	13.2	12.6	14.8	12.8	16.5	17.7	13.1	14.7	15.4	15.1	↑	当該年度80歳到達者のうち、8020表彰の受賞者数/当該年度80歳到達者数×100。愛知県は「あいち新計画」より。		
4-2 運動・身体活動	① 体を動かすことの楽しさを知る機会を増やす	9:健康づくりでウォーキングなどの運動に取り組んでいる人の割合●	男性	37.2	35.3	37.9	37.0	38.1	36.5	36.1	40.9	37.6	41.9	38.8	40.9	↑	総合計画の市民アンケート「現在、健康づくりの取り組みをしている」で「はい」と回答をした人のうち、取り組みとして「ウォーキングなどの運動」と回答した人の数/アンケート回答総数×100
		女性	27.7	28.8	26.9	26.9	23.5	27.6	28.9	29.3	30.9	30.7	30.9	34.8	↑		
		10:1回30分以上の運動を週2回以上1年以上実施している人の割合	40～64歳	28.4	30.5	29.3	29.2	28.7	27.8	27.2	29.1	24.3	28.0	29.2	15.2	↑	
	65歳以上	49.3	51.4	50.3	48.5	51.6	47.4	46.4	47.1	43.3	45.3	44.6	22.5	↑			
	② 運動に取り組みやすい場を充実させる	11:市内の施設や環境が健康づくりに取り組みやすいと感じている人の割合●	男性	56.1	59.9	62.2	59.1	58.4	63.3	62.8	61.3	63.7	63.6	64.0	62.8	↑	総合計画の市民アンケートで「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人の数/アンケート回答総数×100
		女性	62.5	66.7	63.9	67.2	62.5	66.7	68.9	68.7	70.0	67.3	65.2	64.6	↑		
	③ グループ(企業・団体)活動を推進する	12:運動ステーションの数と利用者数●	箇所数	4	5	5	5	5	5	5	5	6	6	6	5	↑	運動ステーションの設置数
		利用者数	-	108,822	130,889	146,864	148,444	146,869	140,784	133,112	71,616	89,053	117,800	138,970	↑	運動ステーションの延利用者数	
13:市と連携して健康づくりに取り組む市民団体数・企業数		市民団体数	-	-	-	-	-	-	-	8	4	4	7	7	↑	市と連携して市民等を対象としたウォーキングイベントを実施した市民団体数	
企業数	-	-	-	-	-	-	-	-	8	6	6	7	6	↑	市と連携して従業員の健康づくりに取り組んだ(いきいき元気キャンペーンに参加した)企業数		
14:1年間に地域や会社のウォーキングイベントや健康教室に参加したことのある人の割合●	12.4	12.7	14.5	14.1	14.3	14.9	13.1	15.4	9.5	11.0	10.1	11.5	↑	総合計画の市民アンケートで「はい」と回答をした人の数/アンケート回答総数×100			
4-3 食生活	① 適量やバランスを意識する機会を増やす	15:健康づくりで食事の量やバランスなど食生活の改善に取り組んでいる人の割合●	26.3	29.6	29.5	29.9	29.8	30.1	31.3	27.9	30.9	31.5	28.4	31.9	↑	総合計画の市民アンケート「現在、健康づくりの取り組みをしている」で「はい」と回答をした人のうち、取り組みとして「量やバランスを意識した食事」と回答した人の数/アンケート回答総数×100	
		16:食生活ステーションの数と提供メニュー数●	箇所数	23	31	35	36	33	33	34	32	34	31	30	27	↑	食生活ステーションの設置数
			メニュー数	35	44	52	48	41	37	49	44	54	51	53	50	↑	いきいき元気メニューとして認定し、市内の食生活ステーションで提供しているメニュー数
4-4 ふれあい	① 交流の場・活動の場を充実させる	17:地域活動や市民活動を身近に感じている人の割合●	48.0	50.0	51.4	48.4	49.0	50.0	51.1	47.9	45.6	46.1	42.4	43.9	↑	総合計画の市民アンケートで「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人の数/アンケート回答総数×100	
		18:困った時に悩みを相談できる人が身近にいる人の割合	男性	75.1	75.6	75.9	77.0	77.7	78.1	74.5	80.6	80.4	77.4	76.8	81.7	↑	総合計画の市民アンケートで「はい」と回答した人の数/アンケート回答総数×100
女性	90.7	88.5	87.9	90.1	89.7	89.4	85.7	89.7	93.1	91.3	87.5	91.9	↑				
4-5 次世代の健康	① 規則正しい生活習慣を身につける	19:午後9時前に就寝する幼児の割合	1歳6か月	28.4	30.6	33.3	31.8	29.6	31.5	27.7	32.9	32.9	42.0	42.6	45.1	↑	1歳6か月児健康診断、または3歳児健康診断の問診より、各健康診断での午後9時前に就寝する幼児の数/各健康診断受診者数×100
			3歳	25.9	23.2	26.6	28.1	24.7	26.6	24.2	21.9	25.3	22.6	22.8	27.7	↑	
		20:朝食を食べている幼児の割合	1歳6か月	95.3	96.1	96.7	95.5	95.8	97.0	95.9	96.6	96.2	96.6	96.8	97.2	↑	1歳6か月児健康診断、または3歳児健康診断の問診より、各健康診断での朝食を食べている幼児の数/各健康診断受診者数×100
			3歳	94.8	94.2	95.5	95.0	91.2	93.6	94.6	94.2	94.1	95.0	95.7	96.5	↑	

4-1 健康の大切さ

①自分の体をメンテナンスできる人を増やす

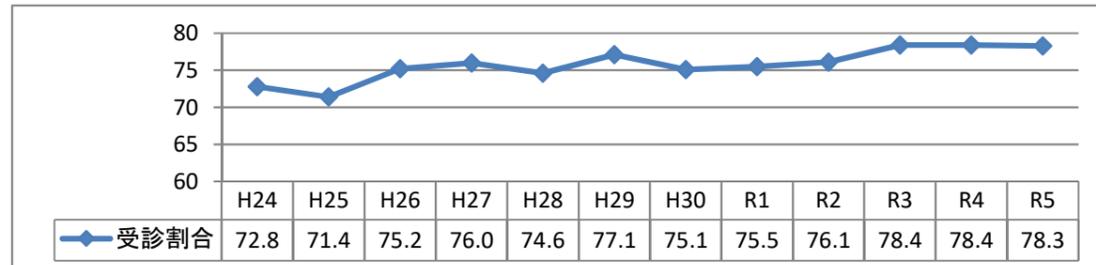


① 施策のありたい姿

健康診断をきっかけに自分の生活習慣を振り返り、毎年自分の健診結果を楽しみにしている人が増える。
喫煙習慣がある人が減り、タバコの煙が少ないまちになっている。

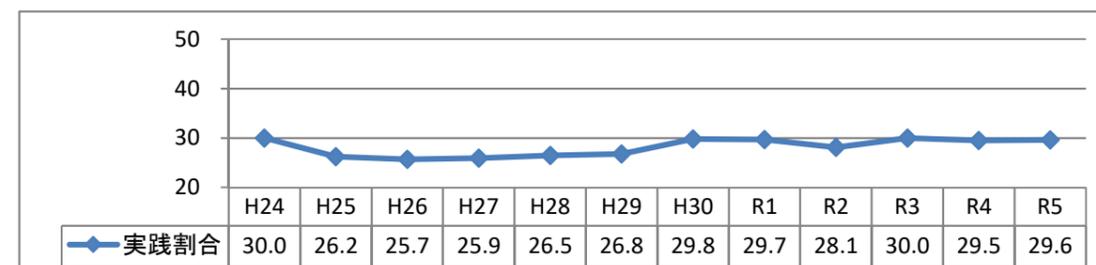
② 指標の推移

指標3: 年に1回は健康診断を受けている人の割合



○ 前年度より0.1ポイント減少し伸び率はほぼ横ばいだが、基準値と比較し増加傾向。男性85.0%(前年度85.1%)で0.1ポイント減少したが、女性は74.2%(前年度73.6%)で0.6ポイント増加した。職業別にみると、自営業、学生及び主婦(家事専業)が低い割合となっている。

指標4: 生活習慣改善に取り組んでいる人の割合



△ 前年度から0.1ポイント増加したが、基準値と比較するとほぼ横ばい。生活習慣改善の取組みを継続している人は約3割であるが、近いうちに改善したい及び改善するつもりと答えている人は41.0%おり、生活習慣改善の必要性を感じている人は多い。

④ 推進会議のコメント

[Blank box for comments]

⑤ 施策の評価

[Blank box for evaluation]

③ 主な取り組み

項目・プランの方向性	ア) 特定健康診査・特定保健指導の充実
主な事業	対象者に合わせた未受診者対策を実施し、健康診断結果による個別指導を充実させます。 未受診者の特性を人工知能を用いて階層化して受診行動に結びつきやすい内容の受診勧奨通知の送付(業者委託)、周知・啓発(公共施設等へのポスター掲示、広報及びホームページ、市公式LINE等)、特定保健指導を市民体育館でも実施、令和5年度からオンライン面談を実施
課題・次年度の方向性	未受診者の特性を階層化した上での受診勧奨については受診率の向上がみられているため、今後も継続する。また、若い世代から健康診断を受診する習慣を身に付けてもらうため、16歳から39歳までに実施しているフレッシュ健診の周知・啓発に努める。令和6年度から特定保健指導の受けやすい体制づくりとして、公立西知多総合病院で健診を受けた方で特定保健指導の対象者に当日面接を実施する。

項目・プランの方向性	イ) 医療機関との連携
主な事業	医療機関と連携し、治療が必要な人への支援や治療中の人の保健指導を行います。 医療が必要な方への受診勧奨、糖尿病悪化予防事業
課題・次年度の方向性	糖尿病悪化予防事業は医療と並行して実施することが効果的であり、事業への参加者が減少傾向であることから、医療機関と連携して新規参加者を募り、糖尿病の悪化予防に努める。また、各種健康診査の結果で血圧や血糖に関する値が受診勧奨判定値の者への受診勧奨は継続。

項目・プランの方向性	ウ) 受動喫煙防止の推進
主な事業	全ての人を受動喫煙から守るため、公共施設や職場の禁煙区域を増やします。 しあわせ村や市役所庁舎にて受動喫煙対策や世界禁煙デー等に関する啓発ポスターの掲示やメディアスFMでの囑託医によるメッセージ配信を実施し、喫煙や受動喫煙の健康被害について啓発した。また、健康イベントでがん予防のための禁煙を掲示PRした。
課題・次年度の方向性	健康イベント等で受動喫煙防止の必要性を啓発

項目・プランの方向性	エ) 青年期の喫煙対策の充実
主な事業	教育機関や企業と連携し、青年期に喫煙習慣を形成しないための知識の普及・啓発を行います。 ホームページやメディアスFM等で青年期の喫煙対策に関する啓発を行った。
課題・次年度の方向性	中学生への健康教育、イベント等で喫煙における健康被害等の啓発

4-1 健康の大切さ

② 壮年期をがんから守る

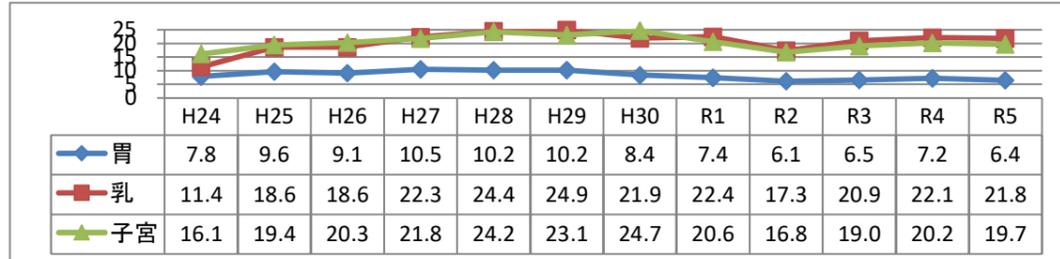


① 施策のありたい姿

がんについて正しい知識を持ち、がん検診を受診している人が増えている。

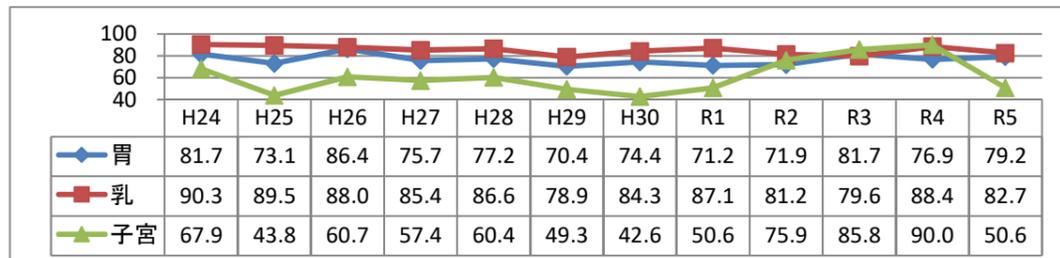
② 指標の推移

指標5: がん検診受診率



○ 昨年度と比較して胃がん検診受診率は0.8ポイントの減、乳がん検診受診率は0.3ポイントの減、子宮頸がん検診受診率は0.5ポイントの減となった。胃がんリスク検診の受診率1.4%も含めた胃がん検診全体の受診率は、7.8%となり、昨年度より1.3ポイントの減となった。平成24年度以降で見ると、胃がん検診についてはおおむね横ばいで推移し、乳がん、子宮頸がんについては概ね順調である。

指標6: がん精密検査受診率



△ がん精密検査受診率は、胃がん精密検査受診率以外は減少した。平成24年度以降で見ると、胃がん、乳がんの精密検査受診率は概ね横ばいで推移しており、29年度(2017年)以降電話勧奨を実施しているものの、昨年度は特に子宮頸がんの精密検査受診率が低下した。

④ 推進会議のコメント

⑤ 施策の評価

③ 主な取り組み

項目・プランの方向性	ア) がんについての情報提供
主な事業	若い人や働く世代のがん予防への関心を高めるため、母子保健等の事業や企業、各種団体と連携して、がんに対する正しい知識や検診の必要性などの情報を提供します。
課題・次年度の方向性	しあわせ村で乳がん予防の啓発のための掲示を実施。全国健康保険協会愛知支部(協会けんぽ)と連携し、特定健診未受診者勧奨通知に市がん検診の受診勧奨案内の同封を行った。また、第一生命と連携して、本市がん検診の周知及びアンケート調査を実施した。

項目・プランの方向性	イ) 受診しやすいがん検診の整備
主な事業	子育て中の人や働く人など、多様なライフスタイルの人が受診しやすいがん検診の体制を整備します。
課題・次年度の方向性	個別医療機関での検診受診の啓発の継続、土日の集団検診の実施や子宮頸がん集団検診における保育士による託児の実施

項目・プランの方向性	ウ) がん検診フォローアップの充実
主な事業	検診結果をわかりやすくフィードバックし、精密検査が必要な人への相談や受診勧奨を充実させます。
課題・次年度の方向性	精密検査の対象者へ検査可能な医療機関の一覧を作成し送付することで受診へつなげる。一次検診実施医療機関へ二次検診(精密検査)受診結果の情報提供を行い、一次検診の精度向上を図る。子宮頸がん検診は、壮年期への電話勧奨を継続して行う。



4-1 健康の大切さ

③おいしく食べ、おもいきり笑えるお口をつくる



① 施策のありたい姿

歯を大切にする生活習慣が身につき、いつまでもかめる歯とおもいきり笑えるお口を持つ人が増えている。

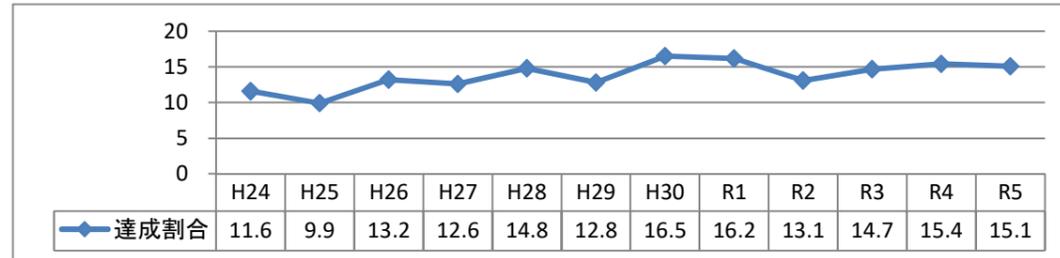
② 指標の推移

指標7: 中学生の歯肉炎の罹患率



○ 昨年度と比較して0.2ポイント増加し、コロナの時期は大きく変動したが、平成24年度以降からは減少傾向である。しかしコロナ前の数値にはまだ及んでいないため、歯肉炎を含んだ歯周病について、小中学校の健康教育内容に盛り込んでいく。

指標8: 8020達成者割合



○ 昨年度と比較して0.3ポイント減少したが、平成24年度以降は増加傾向で、ここ数年は横ばいの状況である。愛知県の目標値50%には及んでいない。

④ 推進会議のコメント

⑤ 施策の評価

③ 主な取り組み

項目・プランの方向性	ア) むし歯予防対策
方向性	幼児のフッ化物塗布及び保育園・幼稚園、小学生のフッ化物洗口の取り組みと、食後の歯みがきの習慣化に取り組みます。
主な事業	フッ化物洗口事業、歯科健康教育事業、歯科健診時のフッ化物塗布
課題・次年度の方向性	フッ化物洗口は、実施施設100%であるが、コロナで中止した施設の再開できる体制づくりを支援した。令和6年度には全施設が実施予定。 歯科健康教育では、むし歯予防のための知識及び正しい歯みがきの方法を習得する内容を盛り込む。

項目・プランの方向性	イ) 歯周病対策
方向性	学校や企業での健康教育に取り組み、かかりつけ歯科医を持つ人を増やします。また、受診率向上を目指し、受けやすい歯周疾患検診に取り組みます。
主な事業	歯周病検診、フレッシュ歯周病検診、休日歯科健診
課題・次年度の方向性	フレッシュ歯周病検診は、2年連続7%台と受診率が低い。HPにて、県作成の歯科健診啓発動画を掲載した。また、若い世代から歯周病予防について啓発を行うため、小・中学校の歯科健康教育に歯周病の内容を取り入れている。

項目・プランの方向性	ウ) 健口体操の普及・啓発
方向性	筋肉の衰えや唾液の減少から口腔機能が低下しないよう、健口体操を市内全域で普及させます。
主な事業	介護予防教室、訪問型介護予防事業、高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施
課題・次年度の方向性	お口の体操を日常生活に取り入れてもらえるよう、継続して無理なく、楽しく行えるお口の体操を提供していく。

項目・プランの方向性	エ) 歯科保健に係る多職種連携
方向性	在宅要介護者や障害者などの通院等が困難な人の歯やお口の健康を支援するため、施設職員や歯科医師などの多職種が連携できる仕組みをつくります。
主な事業	通所施設障がい者歯科健診、自立型支援会議の参加、訪問相談(口腔チェック10点リスト:高齢者支援課事業)
課題・次年度の方向性	通所施設障がい者歯科健診は、健診実施後の治療確認までができていない。 自立型支援会議では、支援の情報内容に歯科が含まれることがほとんどなく、他職種の関心の低さが窺えるが、地道に利用者の健康が維持できるよう意見していく。 訪問相談では、歯科衛生士が訪問し必要に応じて包括支援センター及び歯科医院へ連絡している。依頼件数が少なく、令和5年度は3件だった。

4-2 運動・身体活動 ①体を動かすことの楽しさを知る機会を増やす

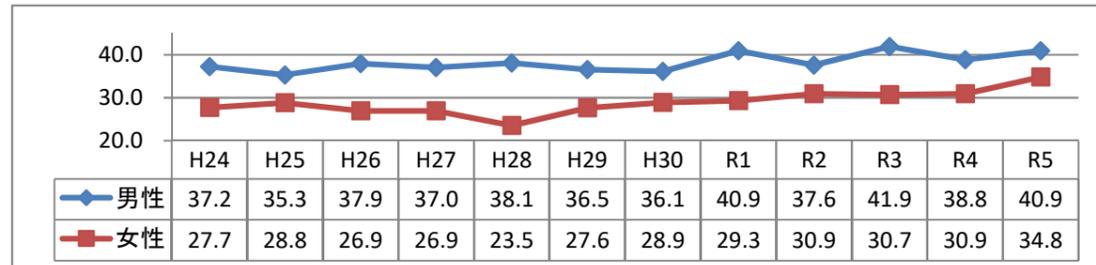


① 施策のありたい姿

ウォーキングイベントなどをきっかけに、体を動かすことを楽しみながら生活の中に取り入れている人が増えている。

② 指標の推移

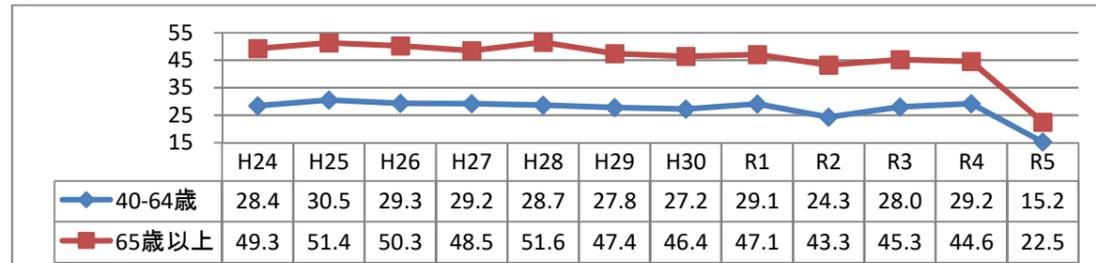
指標9:健康づくりでウォーキングなどの運動に取り組んでいる人の割合



○

男性は前年度から1.1ポイント、女性は前年度から3.9ポイント改善し、基準値からも順調な推移となっている。年齢別では16～19歳、職業別では学生で改善した。

指標10:1回30分以上の運動を週2回以上1年以上実施している人の割合



△

前年度と比較し、40～64歳及び65歳以上ともに大幅に減少した。男女別では、前年度から男性は23.5ポイント、女性は18.0ポイント減少した。地域別では、前年度から平洲が28.6ポイント、渡内が26.2ポイント減少し、他の地区より減少幅が大きかった。

④ 推進会議のコメント

⑤ 施策の評価

③ 主な取り組み

項目・プランの方向性	ア) 情報提供の充実
主な事業	市や各種団体が実施しているウォーキングや、ニュースポーツなどのイベント情報をとりまとめ、年代やライフスタイルに合わせた情報提供を進めます。
課題・次年度の方向性	参加者は高齢者が多く、リピーターが多い。子どものいる家族層にとっても運動ができる機会となるよう周知方法や、開催日時に工夫を図る。

項目・プランの方向性	イ) 運動応援メニュー提供事業
主な事業	運動に関心をもった人が具体的に行動できるように、対面による運動・食生活応援メニューの提供の場面を増やします。
課題・次年度の方向性	しあわせ村トレーニング室や市民体育館、事業所等への健康づくりに関する出前講座等で運動・食生活応援メニューを提供。(1,105件)
課題・次年度の方向性	特定健診結果報告書での情報提供を継続し、応援メニュー判定の増加を図っていく。世代に活用してもらえるよう引き続き市内事業所、全国健康保険協会愛知支部と連携・協力していく。

項目・プランの方向性	ウ) ウォーキングの推進
主な事業	歩きたくなるウォーキングマップや魅力あるイベントをとおして、ウォーキングに取り組む人を増やします。
課題・次年度の方向性	シニア健康スポーツフェスティバルのウォーキング東海を始めとした東海市健康づくりリーダー連絡協議会・東海ライオンズクラブ等によるウォーキングイベントを実施(7団体11イベントに1,402人が参加)し、5イベント参加した方にへいしゅうくんのオリジナルピンバッチをプレゼント。
課題・次年度の方向性	前年度と比較し、参加者が増え子どものいる家族層がみられるようになった。参加者層もメインとなる高齢者へのアプローチとして、引き続き「高齢者とうかい健康チャレンジ」事業を通じ、県のスマートフォンアプリ「あいち健康プラス」を活用して、手軽な運動であるウォーキングに取り組む人を増やす。



4-2
運動・身体活動

②運動に取り組みやすい場を充実する

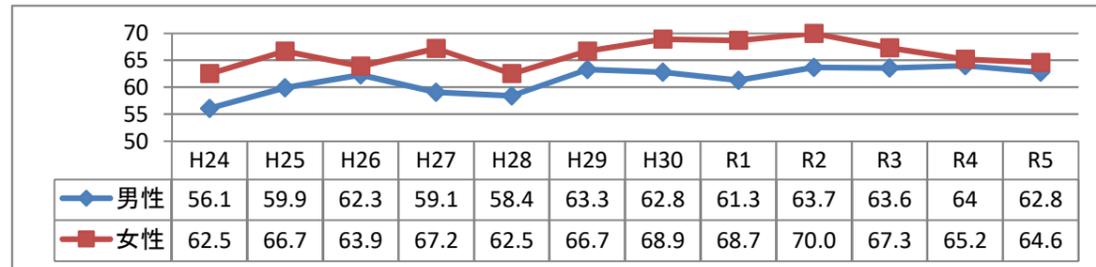


① 施策のありたい姿

運動習慣がない人も「運動をしてみよう」と思え、運動習慣が自然に身に付く環境が整っている。

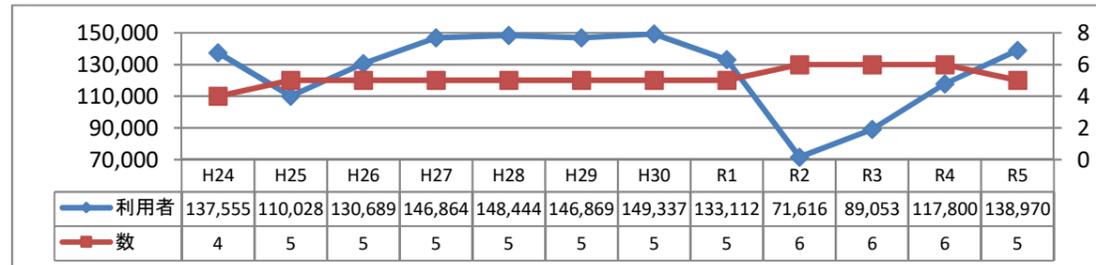
② 指標の推移

指標11:市内の施設や環境が健康づくりに取り組みやすいと感じている人の割合



○ 男性は基準値から6.7ポイント、女性は2.1ポイント改善しており、順調に推移している。引き続き健康づくりに取り組みやすい環境の整備に取り組む。

指標12:運動ステーションの数と利用者数



△ 令和5年度末で市営温水プールが廃止されたことにより、運動ステーションの数は1減少となった。利用者数は増加しており、新型コロナウイルス感染症による利用制限前の水準に戻った。

④ 推進会議のコメント

⑤ 施策の評価

③ 主な取り組み

項目・プランの方向性	ア) トレーニング場所の充実・整備事業
運動習慣のない人が入りやすく使いやすいトレーニング室の充実と、増加する利用者に合わせた場所の拡充を進めます。	
主な事業	しあわせ村トレーニング室に健康運動指導士を配置して運動に関するアドバイス、高齢者健康づくり事業(コパンスポーツクラブ東海の利用料金の一部補助)を実施
課題・次年度の方向性	コパンスポーツクラブ東海を利用する高齢者に対して利用料金の一部を補助する。しあわせ村トレーニング室では医療機関と連携してリスク保有者やこれまで運動習慣がなかった方でも安心して運動できる環境づくりを推進する。

項目・プランの方向性	イ) 歩道やウォーキングコース(ペース体感ゾーン)の整備・活用事業
足首や膝に負担が少なく、安全で歩きやすい歩道や、ウォーキングコースの整備と利用促進を図ります。	
主な事業	市内公園施設や加木屋緑地を活用したウォーキングイベントの実施
課題・次年度の方向性	緑の中で、景色を楽しみながらクロスカントリーコースで健康づくりやトレーニングができる加木屋緑地や、市内公園施設を活用し、個人の健康状態や体力に合ったウォーキングのペースが確認できるウォーキングペース体感ゾーンの利用を推進する。

項目・プランの方向性	ウ) 仲間と取り組む運動場所の充実・整備事業
高齢者が仲間とともに継続的に体を動かし活動できるよう、グラウンド・ゴルフ場などを整備します。	
主な事業	グラウンドゴルフ場の利用促進(荒尾グラウンドゴルフ場 R5年度利用者数9,561人)
課題・次年度の方向性	荒尾グラウンドゴルフ場の利用者数は、前年度に比べ約700人減少した。引き続き、施設の利用促進を図る。

項目・プランの方向性	エ) 各種運動教室の連携事業
公民館など身近なところで参加できる運動教室を充実します。運動の強さをわかりやすく示すなど、自分に合った運動教室が選べる仕組みを作ります。	
主な事業	公民館・市民館でゴムバンド体操、ストレッチ、ヨガ等の運動教室を実施。高齢者が運動をできる場の情報提供として、市民館公民館、健康交流の家等で実施しているゴムバンド体操、おもりを使った百歳体操の一覧表を作成。
課題・次年度の方向性	各機関が実施している運動教室について、個人の希望に合った運動(教室型、個別型等)の情報提供方法について関係課等と検討する。

4-2
運動・身体活動

③グループ(企業・団体)活動を推進する

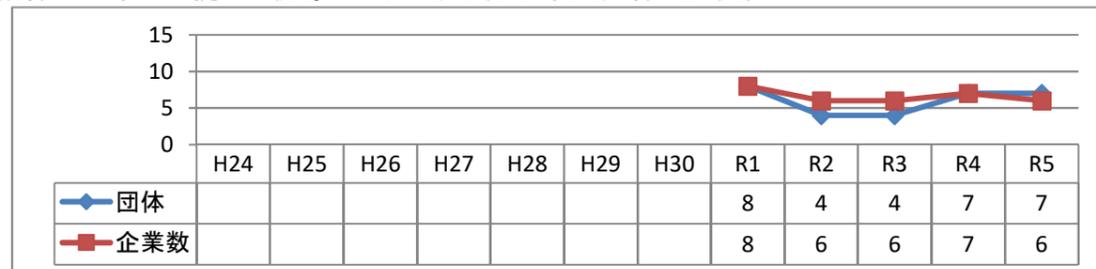


① 施策のありたい姿

企業や市民団体の特性を生かした健康づくりに関する取り組みが活発に行われている

② 指標の推移

指標13: 市と連携して健康づくりに取り組む市民団体・企業数



○ みんなでウォーキングは7団体と連携して実施した。また、6企業と連携して従業員の健康づくりに取り組む出前講座を実施した。引き続き、市民団体・企業と連携して高齢者だけでなく働き盛り世代に対する健康づくりのきっかけづくりや継続した取り組みを支援する。

指標14: 1年間に地域や会社のウォーキングイベントや健康教室に参加したことのある人の割合



△ 前年度との比較では1.4ポイント改善したが、基準値から0.9ポイント減少となった。年齢別では16～19歳、職業別では学生層が大きく減少した。

④ 推進会議のコメント

⑤ 施策の評価

③ 主な取り組み

項目・プランの方向性	ア) 市民団体との連携事業
健康づくりに取り組む市民団体との連携を進め、地域での健康づくり活動を活性化します。	
主な事業	東海市健康づくりリーダー連絡協議会・東海ライオンズクラブ等によるウォーキングイベント(7団体11イベントに1,402人が参加、99人にへいしゅうくんオリジナルピンバッジをプレゼント)
課題・次年度の方向性	健康づくりに取り組む市民団体におけるメンバーの高齢化が進むとともに、後継者も少ない状況であることから、いきいき元気フェスティバルやみんなでウォーキングを通じて、健康づくりに取り組む人を増やし市民団体への参加を促す。

項目・プランの方向性	イ) 企業の活動支援事業
事業主や担当者の健康への関心を高めるための取り組みを進めます。また、従業員の健康づくりを進める企業の活動を支援します。	
主な事業	出張判定・健康教育(6社、649人)
課題・次年度の方向性	健康づくりや健康診断を受ける人の割合は年代が下がるにつれて低い傾向にある。企業の健康経営の取組を支援する中で、若い時期からの生活習慣病の予防を推進していく。

項目・プランの方向性	ウ) サークル活動応援事業
おもりの体操やゴムバンド体操など、健康づくりを自主的に取り組む市民のサークル活動を支援します。	
主な事業	地域で活動している団体に対し、体力チェックや健康教育、健康相談等を実施。高齢者元気アップ教室の実施。脳トレいきいき百歳体操応援事業
課題・次年度の方向性	地区活動の担い手の高齢化が進み解散する団体も少なくないことから、壮年期から地域との関わりを持てるような支援策について関係団体等と検討していく。また、地縁に頼らなくても活動できる事業の開催場所の拡大を検討する。



4-3
食生活

①適量やバランスを意識する機会を増やす

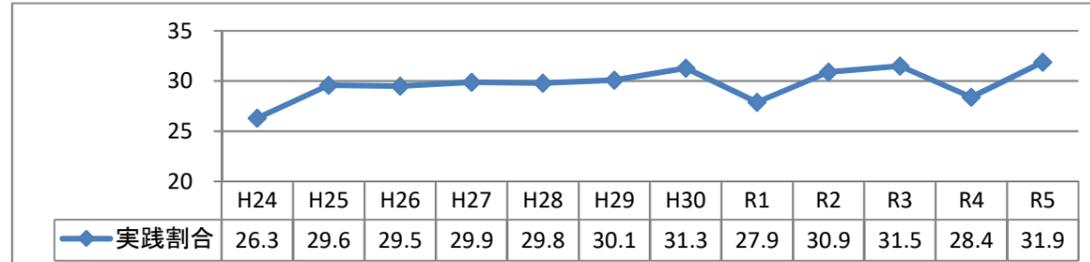


① 施策のありたい姿

身近に食事量やバランスを意識できる機会があり、自分に合った食生活を送っている人が増えている。

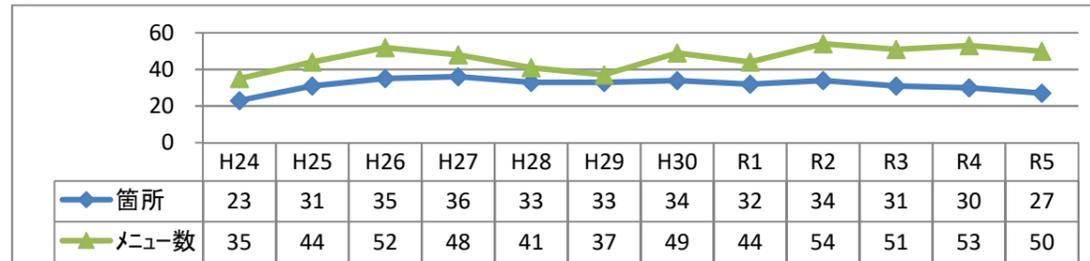
② 指標の推移

指標15:健康づくりで食事の量やバランスなど食生活の改善に取り組んでいる人の割合



前年度との比較では3.5ポイント改善し、男女とも改善した。職業別では、会社員・公務員では5.0ポイント、自営業で11.1ポイント改善し、労働者層で改善が見られた。健康経営をはじめとした、就労者層の健康意識の高まりによるものと考えられる。

指標16:食生活ステーションの数および提供メニュー数



食生活ステーションの数は、廃業及び経営者都合により令和5年度末で3店舗減少した。新型コロナウイルスの影響で低調となった外食需要を呼び戻し、認定店舗の拡大を図る。

④ 推進会議のコメント

⑤ 施策の評価

③ 主な取り組み

項目・プランの方向性	ア) 食の正しい知識・情報の啓発(知育) 食生活応援メニューの提供やいきいき元気メニューのレシピを活用し、食の正しい知識や適量・バランスなどの情報提供を進めます。
主な事業	しあわせ村・公民館等での調理実習は予定通り実施した。離乳食講習会はオンラインと来所併用で行い参加者が選択できるように環境を整備した。その他料理掲載サイトや知多メディアス、広報を活用して食の情報発信した。
課題・次年度の方向性	料理教室等を再開する。可能な教室は対面や料理を教材とした体験ができる事業を実施するとともに、オンラインを併用しながら食の情報発信を行っていく。

項目・プランの方向性	イ) いきいき元気メニューの開発・普及(徳育) 東海商工会議所や市内の飲食店、また大学や企業などとの連携を進め、いきいき元気メニューの開発・普及を進めます。
主な事業	食生活ステーションとの連携(27店舗)
課題・次年度の方向性	食生活ステーションの数及び提供メニュー数は横ばい傾向である。食生活ステーションの増加に努め、健康応援ステーションの認知度向上を図り啓発を進めていく。

項目・プランの方向性	ウ) トマトを使った健康づくりの推進(徳育) トマトの苗の配布やトマトの日(毎月10日)の取り組みを進め、地域や小学校などでの食育を進めます。また、トマトを使った健康メニューの開発や食の活動拠点の整備を進めます。
主な事業	市内小中学校及び希望するコミュニティ等にトマト苗の配布を実施した。トマトde健康フェスティバルは7,171食(R4 5,494食)を販売。トマト給食コンテスト入賞作品をとまと記念館で提供した。また、小学校でのトマト出前授業を実施した。
課題・次年度の方向性	今年度はカゴメ株式会社との「トマトde健康まちづくり協定」締結から10周年となり、トマトde健康フェスティバルやトマト給食など、トマトを使った取り組みの多くも10周年となる。今年度は市政55周年記念事業として市民レシピコンテストを実施し、トマトを使ったオムライスや給食レシピを募集する。

項目・プランの方向性	エ) 食生活改善推進員の人材育成・活動支援(徳育) 地域において、食の正しい知識の普及や取り組みを進める食生活改善推進員の育成と活動を支援します。
主な事業	公民館・市民館等の料理教室は予定通り実施した。ヘルスマイト養成講座は18名参加し、14名が協議会に加入された。食改の生涯教育、活動は予定通り実施した。
課題・次年度の方向性	今年度は定員を20名として実施する。他の協議会との交流会等を企画するなど、活動の活性化を支援する。食生活改善推進員がカゴメ株式会社が認定するオムライススペシャルアンバサダーを取得。地域で行う料理教室の一部で「オムライス教室」を開催する予定。

4-4
ふれあい

① 交流の場・活動の場を充実する

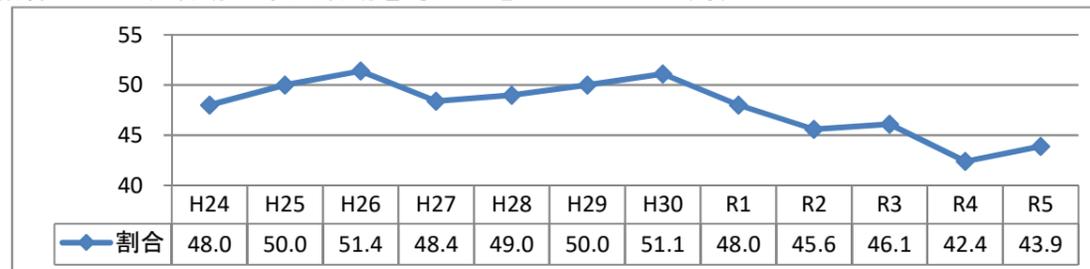


① 施策のありたい姿

幼少期から高齢者までのすべての人が人とのつながりの場を持ち、人生を楽しみながら生涯現役で過ごしている。

② 指標の推移

指標17: 地域活動や市民活動を身近に感じている人の割合



R1年度より低下してきたが、昨年より1.5ポイント増加している。コロナ禍で地域での様々な活動が中止され、その後再開はしているものの、市民の意識上は回復していない。地域のつながりや活動を身近に感じられるような取組が必要である。

指標18: 困った時に悩みを相談できる人が身近にいる人の割合



2年連続低下していたが、前年度比、男性4.9ポイント、女性4.4ポイント上昇した。基準値からみると横ばいである。引き続き相談につながるような交流の場づくり等の工夫が必要である。

④ 推進会議のコメント

⑤ 施策の評価

③ 主な取り組み

項目・プランの方向性	ア) 情報の一元化と情報発信
活動情報の集約と情報発信を行い、自分にあった地域の交流や活動の場に参加しやすい仕組みづくりに取り組みます。	
主な事業	介護予防啓発研修会(84名参加)にて、市内の介護認定の状況等、高齢者を取り巻く情報や地域の活動についての情報を発信。また、生活支援体制整備事業の第2層協議体でインフォーマルな活動情報も含め生活支援コーディネーターを中心にメンバー同士で情報を共有・集約した。随時、個別相談等で対象にあった地域の交流や活動の場を提案。
課題・次年度の方向性	個人が必要な情報を選択できるよう、情報を整理して発信していく。講演会等、多くの人が集まる場所で実施。生活支援体制整備事業の第2層協議体で情報の共有・集約をし、情報を目にしやすい方法を複数の媒体(ちらし、ホームページ、SNS等)で見せていく。

項目・プランの方向性	イ) 担い手の育成・交流促進
専門家による支援を進め、地域で生活する退職者を活動の担い手として育成します。団体同士の交流の機会をつくり、活動の活性化を図ります。	
主な事業	社会福祉協議会と健康推進課共催でボランティア養成講座を実施(延40人参加)。
課題・次年度の方向性	ボランティア養成講座の受講者が減少し、地域の通いの場の世話役である、脳トレいきいき百歳体操のサポーターの新規登録者が3名のみだった。R6年度は、啓発研修会で退職後の社会参加について介護予防の視点から勧め、その後に、サポーター養成講座を実施していく。

項目・プランの方向性	ウ) 交流・活動の場の充実
地域の健康課題や特性を分析し、運動や会食など地域にあったメニュー開発を進め、交流や活動の場を充実します。	
主な事業	いきいき百歳体操(35団体) R5年度新規立ち上げ1団体、サロン等への健康教育(45回、747人)、地域介護予防活動支援事業(専門職の派遣129回、1,687人) 内容: 体力測定、歯科指導、栄養指導、いきいきランチ会(健康支援型配食サービス48回、664名利用)、高齢者元気アップ教室3か所
課題・次年度の方向性	いきいき百歳体操事業では、参加者の高齢化で人数の減少から継続が難しい団体もあり、活動の継続的サポートが必要である。また、世話役が要る住民主体のグループの他に運動の指導者を置く「高齢者元気アップ教室」の開催場所を増やし、身近で通いやすくする。



4-5
次世代の健康

①規則正しい生活習慣を身につける

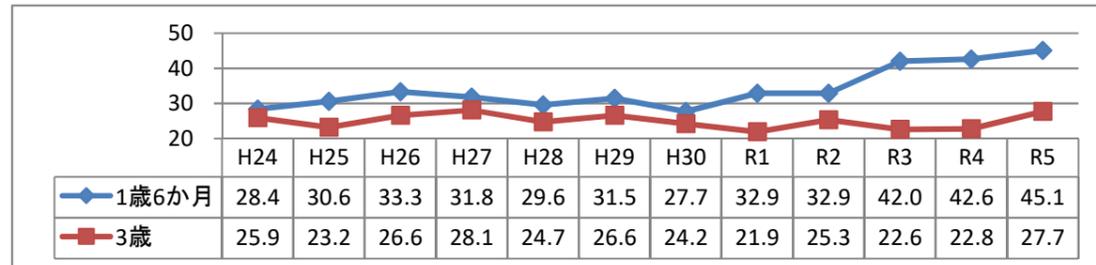


① 施策のありたい姿

「運動」、「食事」、「睡眠」といった生活サイクルが整っている。

② 指標の推移

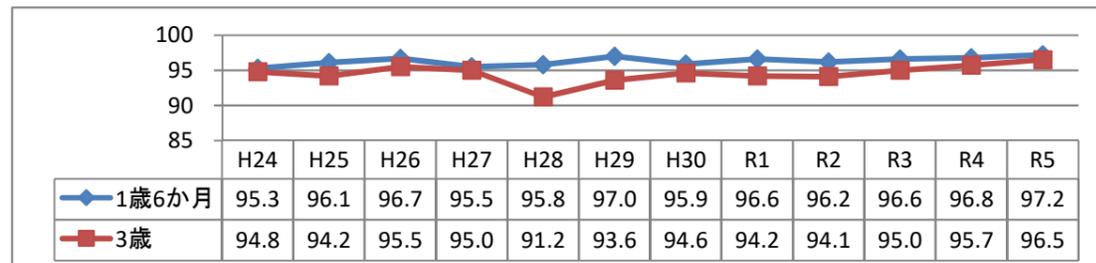
指標19: 午後9時前に就寝する幼児の割合



△

1歳6か月児は前年より0.6ポイント改善したが、3歳児は前年より0.2ポイント悪化し、全体としては横ばいである。年齢が上がると就寝時間が遅くなる傾向があるため、3歳児健診等の機会に啓発が必要である。

指標20: 朝食を食べている幼児の割合



○

1歳6か月児は前年比0.2ポイント、3歳児は0.7ポイント改善しており、順調に推移している。朝食を毎日食べていない幼児は、就寝時間も遅い傾向があるため、生活全体の改善にむけて個別指導を充実する必要がある。

④ 推進会議のコメント

⑤ 施策の評価

③ 主な取り組み

項目・プランの方向性	ア) 情報提供と相談体制の充実
主な事業	子育ての悩みや不安が解消でき、保護者の具体的な行動の支援につながる情報提供や相談体制の充実を図ります。
課題・次年度の方向性	妊娠期から生活サイクルの重要性について啓発を行うとともに、共働きで忙しい家庭が増えているため、オンライン相談等の多様な相談機会の提供、周知を継続していく。

項目・プランの方向性	イ) 実践学習の場の整備
主な事業	子どもに関する教室等の事業において、参加者同士が学び会える体験型の取り組みを進めます。
課題・次年度の方向性	ベビーサロンなどの触れ合いを通じた参加しやすい学習機会の提供を継続する。育児休暇を取得する父親が増えているため、父親が参加しやすい取り組みとなるよう努める。

項目・プランの方向性	ウ) データの共有と連携体制の整備
主な事業	幼稚園、保育園、小中学校などの関係機関と子どもの健康に関するデータの共有化を進めます。また、子どもの成長に合わせた支援ができるよう、関係機関の連携体制づくりを進めます。
課題・次年度の方向性	PHR(乳幼児期から小中学校の健康診断の結果の連携記録)アプリを用いた本人への情報還元をすすめるとともに、国が進めるマイナンバーを用いた健診データの一元活用について取り組む。



第3次健康増進計画 骨子（案）

東海市 健康推進課
令和6年（2024年）〇月策定

第1編 これまでの取り組みと東海市の健康課題

1 これまでの取り組み

○第2次東海市健康増進計画（いきいき元気推進プラン）では、「めざせ 健康長寿日本一」をテーマに、「～ひと～毎日を楽しめる心と身体」、「～つながり～笑顔でつながるふれあい」、「～まち～健康づくりに取り組みやすい社会環境」の3つの目指す将来像を定めて、生涯をとおして健康づくりを推進するために、「健康の大切さ」、「運動・身体活動」、「食生活」、「ふれあい」、「次世代の健康」の5つの推進項目について取り組んできた。

○健康増進計画の全体の進捗状況を管理するする指標である「健康寿命」は男女とも延伸し、「健康づくりの取り組みをしている人の割合」も上昇し、両指標とも順調に改善している。

○5つの推進項目の進捗状況を管理する34の指標のうち、基準値より改善した指標は、25指標（73.5%）で、推進項目の「食生活」、「次世代の健康」の全指標、「運動・身体活動」、「ふれあい」の半数以上の指標で改善した。悪化した指標は、9指標（26.5%）だった。

2 市民の健康状態

○健康寿命は男女とも延伸した

○主な死因は、がん、心疾患、脳血管疾患など生活習慣病に関連する疾病が多い。

○健康状態として、国や県と比較してメタボリックシンドローム該当者や糖尿病に関する数値が高い傾向にあり、さらに年々増加傾向である。

○健診受診率や「健康づくりの取り組みをしている人の割合」は伸びているが、2～4割の人はできていない

○40歳、60歳の歯周炎を有する者の割合は県に比べて高く、後期高齢期には咀嚼や嚥下に課題を抱える者の割合が県に比べて高い傾向にある。

3 健康に関する社会情勢や政策動向の変化

○国が令和5年に策定した健康日本21（第3次）では、人生100年時代を迎え社会が多様化する中で、「誰一人取り残さない健康づくり」を推進するため、ビジョンを「すべての国民が健やかで心豊かに生活できる持続可能な社会の実現と

し、「健康寿命の延伸、健康格差の縮小」「個人の行動と健康状態の改善」「社会環境の質の向上」「ライフコースアプローチを踏まえた健康づくり」を基本的な方向性としている。また、国民の健康の推進に関する重要項目として、行政だけでなく地域や民間部門等多様な主体による連携・協力を促すことや、オンラインやアプリケーション等のICTを用いたサービスを活用した健康づくりへの取り組みが求められている。

○令和6年3月に愛知県が策定した「第3期健康日本21あいち計画2024-2035」では、国の「健康日本21（第3次）の考え方を取り入れ、基本目標を「健康長寿あいちの実現（健康寿命の延伸と健康格差の縮小）」とし、基本目標達成のため「生涯を通じた健康づくり～ライフコースアプローチと健康」「疾病の発症予防及び重症化予防」「生活習慣の見直し」「社会で支える健康づくり」の4つの基本方針を掲げ推進する。

○近年においては、新型コロナウイルス感染症により物理的に社会的交流が遮断された。現在は回復傾向だが、潜在的な孤立孤独の問題が顕在化した。また、第3次計画が終了する令和17年（2035年）には、いわゆる2040年問題（全国民の1/3が高齢者となり、生産年齢人口が1200万人減少し、社会経済活力や医療介護サービスの需要要求に大きな影響をもたらす）が目前に控え、さらに生涯未婚率の増加、単身世帯者の増加、地縁・血縁・職縁の希薄化により、孤独や社会的孤立が深刻化すると懸念されている。

○食育とは、生きる上での基本であって、知育・徳育・体育の基礎となるものであり、様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実現することができる人間を育てることである。国は食育を包括的にまた計画的に推進するため平成17年6月に食育基本法を制定し、現在、「第4次食育推進基本計画」を策定し、基本的な取組方針を定めている。

愛知県においても「あいち食育いきいきプラン2025～第4次愛知県食育推進計画」を策定し、食を通じて「健康な体をつくる」、「豊かな心を育む」、「環境に優しい暮らしを築く」の3つに加え、これらを「支える」取組を推進し、健康で活力ある社会の実現を目指すこととしている。

本市においても、健康寿命の延伸につながる食育の推進、家庭や地域における共食の推進、食と農のつながりに着目した食育の取組の推進、食生活改善推進員

等のボランティア活動等における取組への支援などを継続して実施する必要がある。

4 本計画におけるライフコースアプローチの考え方

ライフコースアプローチは、成人における疾病の原因を胎児期や幼少期及びその後の人生をどのような環境で過ごし、どのような軌跡をたどってきたのかという要因で考えるものである。幼少期からの生活習慣や身体の状態は、青年期、高齢期へと健康に影響を与えるため、人生の各段階において健康づくりを図る必要がある。

また、女性はライフステージごとに女性ホルモンの大きな変化があるため、性別を視点とした健康づくりも大切であり、こども、女性、高齢者に着目し、ライフコースアプローチの視点を持って、それぞれのライフステージに特有な健康づくりの取組を図っていく必要がある。

5 東海市の健康課題

- 1 個人の健康づくりへの支援（気づきから行動へ）
- 2 健康関心度に依らない健康につながる環境づくり
- 3 社会的交流をとおしたソーシャルキャピタル※の醸成
- 4 胎児期から高齢期まで生涯にわたる長期的な健康づくりの取り組み
- 5 食育の取り組み
- 6 口腔機能の向上に対する取り組み

※人と人とのつながりや信頼関係

第3編 基本計画
1 施策の体系

